

平成28年 6 月22日

平成28年

第 6 回教育委員会定例会会議録

大田区 教育委員会室

平成28年第6回大田区教育委員会定例会会議録

平成28年6月22日（水曜日）午後3時から

1 出席委員（6名）

芳賀 淳 委員	委員長
藤崎 雄三 委員	委員長職務代理者
横川 敏男 委員	
鈴木 清子 委員	
尾形 威 委員	
津村 正純 委員	教育長

2 出席職員（10名）

教育総務部長	水 井 靖
教育総務課長	井 上 隆 義
副参事（教育政策担当）	曾 根 暁 子
副参事（教育施設担当）	布 施 満
学務課長	森 岡 剛
指導課長（幼児教育センター所長兼務）	増 田 亮
副参事	田 井 俊 行
学校職員担当課長	佐 藤 國 治
教育センター所長	岩 田 美 恵 子
大田図書館長	山 中 秀 一

3 日程

日程第1 部課長の報告事項

~~~~~

（午後3時開会）

○委員長

ただいまから、平成28年第6回大田区教育委員会定例会を開催いたします。

本日は傍聴希望者がおります。

委員の皆様は傍聴許可を求めます。許可してよろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

○委員長

傍聴を許可いたします。

（傍聴者入室）

## ○委員長

大田区教育委員会傍聴規則第7条により、傍聴人は、議場における言論に対して批評を加え、または拍手その他の方法により公然と可否を表明することは禁止されております。ご協力よろしくお願いいたします。

では、これより審議に入ります。本日の出席委員数は定足数を満たしていますので、会議は成立しています。

まず、会議録署名委員に藤崎委員を指名いたします。よろしくお願いいたします。

続いて、本日の日程第1について、事務局職員の説明を求めます。

## ○事務局職員

日程第1は、「部課長の報告事項」でございます。よろしくお願いいたします。

## ○委員長

それでは、部課長の報告をお願いします。

## ○学務課長

資料) 学校給食費徴収状況

私からは、学校給食費徴収状況につきまして、このたび平成27年度分がまとまりましたので、ご報告させていただきます。

表をご覧ください。表には5年分の実績を記載しておりますが、一番上の27年度分をご覧ください。と思います。

学校給食の実施校は88校でございますが、そのうち、未納が発生した校数は46校、割合で52.27%となっております。昨年に比べまして若干増加しているところでございます。

一方、児童生徒数につきましては、児童生徒数自体は昨年よりも増えているものの、未納があった児童生徒数は減少している状況でございます。また、給食費における未納金額の合計につきましても、昨年に比べて68万円ほど減少している状況でございます。

今後とも適切な給食運営ができるよう、引き続き徴収率の向上に努めてまいります。

以上でございます。

## ○指導課長

私からは、5月12日に区立中学校生徒が自宅で死亡した事故について、ご報告をいたします。

まずは、亡くなられた生徒に深く哀悼の意を表するとともに、残されたご遺族の皆様にご心からお悔やみを申し上げます。

**【以後、約6分間にわたり時間の経過の順に対応内容を報告】**

## ○指導課長

資料)教科書発行者との不適切な接触等に係る処分等について(報告)

続きまして、教科書発行者との不適切な接触等に係る処分等について、ご報告をいたします。

資料をご覧ください。

概要でございますが、教科書検定申請中のいわゆる検定申請本は、外部への流出が禁止されております。この検定申請本を複数の教科書発行者が、教員等に意見を聞くためと称して閲覧をさせております。大田区立学校教員もこれに参加し、一部教員は教科書発行者から5,000円から2万円の謝礼を受け取っていたという事案でございます。

調査対象期間は、平成21年度から平成26年度でございます。

実際に行われました処分等の内容でございますが、大田区立学校の教員のうち、不適切な接触等を行った者は26人ございました。うち、対価を伴わず教科書検定申請本を閲覧し、意見を述べた者は4名おりましたが、都教委の判断としては不問ということでございます。教科書検定申請本を閲覧して意見を述べ、その際に対価を受け取った者は東京都教育委員会による処分として、給与減額10分の1、1カ月が1名。戒告が2名ということでございます。大田区教育委員会による措置としまして、文書訓告4名、口頭注意6名、その他受領した現金をすぐに返却していたため、不問が1名、他区へ転出していた者が6名、判明時に既に定年退職をしていた者が2名ということでございます。

私からの報告は以上でございます。

## ○委員長

ただいまの報告のうち、5月12日の区立中学校生徒の死亡事故に関しましては、事故が発生した直後から我々6人の教育委員も適宜どのような状況になっているかというご連絡は受けておりました。その後、現在までの間に1回、5月26日に教育委員会の定例会がありました。しかし、その時点では不慮の事故との家族のご要望があり、プレス発表もしていないという状況でしたので、5月26日の定例会では特にその件についてのご報告は受けませんでした。

その後、指導課長がお話になったような状況の変化等もありましたので、今日のご報告をいただくことにいたしました。

その上で一つご質問なのですが、自殺の可能性もあるということですが、例えば、学校内でいじめ等があったかなかったかとかいうような調査であるとか、結果とかいうようなものは何かございますか。

## ○指導課長

報道等で、「自殺の可能性」という見出しが出た後に、全校生徒対象にアンケートを実施いたしました。いじめ、トラブル等は現段階においては確認しておりません。

## ○委員長

その他、ご意見、ご質問等ありましたら。

## ○藤崎委員

同じ件案についてご質問させていただきたいのですが、同校の生徒に対する心のケアについてはご報告いただいたとおりでわかりました。ただ、教育委員会としては、1校だけではなくてほかの中学校、小学校についても、このような痛ましい事故を受けた後、我々教育委員会として未然防止策や、これに対してどのような注意しているという施策や、動き等があったら教えてください。

### ○指導課長

これまでも行ってきたことですが、これからもさらに取り組んでまいりたいことをお伝え申し上げます。

臨時校長会並びに今度の6月の定例校長会もございますので、あわせて学校を指導してまいりたいと考えているのですが、日ごろから教職員全員が子どもの様子を注意深く見る、観察する、それから自己肯定感を高める声かけをする。などを、改めて取り組んでいく必要があると考えております。

どの学校も生命尊重週間というのを設定しておりますので、そのような週間もあわせて命の大切さ、自分を大切にすること、そのようなことも含めて指導してまいりたいと考えております。さらには、学校生活調査、メンタルヘルスチェックというのはこれまでもやってきたわけですが、今年度からは、「周りの人たちがふだんどれくらいあなたの助けになっていると感じますか。」という問いを新たに加えさせていただいております。そのような相談相手があなたにはいるの、いないの、誰なの、ということも含めたものも学校が把握した上で、教員のカウンセリングマインドを生かしながら、子どもたちに寄り添った指導をさらに進めるよう、学校に働きかけ、指導してまいりたいと考えております。

また、月曜朝会などの校長講話、並びに道徳の授業など、命の大切さを訴えるあらゆる場を活用して、命の大切さを子どもたちに伝えてまいりたい、そのための学校へ働きかけを行ってまいりたいと考えています。

以上です。

### ○藤崎委員

これはもうあくまで意見というか、私の考えなのですが、子どもの中で抱え込んでいるものというのを、大人が見つめるのはなかなか簡単ではないのは重々わかっております。わかっておりますので、ぜひ引き続き指導課を中心に、先ほどの新たなアンケート項目を増やすというのも一つの手だと思いますが、どうやって子どもの心の中と大人をつなぐかということ、先生に限らず親もというところは私も一緒ですけど、お互いに注意をしていければと思います。半分は意見であります。よろしくお願いいたします。

### ○委員長

ほかに何か、ご意見等ございますか。

### ○鈴木委員

これからどうするかという問題がとても大切かなと思います。

日ごろの生活の中で、周りとの関係が日々築かれていくわけですがけれども、今お話のよ

うに、学校ではソーシャルサポートなど、いろいろな形でサポートしてくださっています。学校へ行きますと道徳授業だとか、様々なことを行って非常に熱心にやられているということはよくわかっておりますけれども、公開授業の時に保護者の方々の参加ですとか、そういうものをできるだけ多く取り入れたい。一番何を言いたいかという、保護者への啓発をもっとしっかりしていきたいと感じます。先ほど藤崎委員からもお話が出ましたけれども、どうつないでいくかということはとても大事かなと思うのです。非常に熱心に学校ではやっているのですけれども、それがいろいろな面につながっていかない。地域や学校、それから保護者、そういった面につながっていくということはとても大切かなと思っております。

今、いろいろ言われておりますけれども、「不寛容社会」という言葉が出てきています。相手に対して非常に厳しい。物によっては糾弾してしまう。子どもだけでなく大人も含めてそういった傾向が大いに見受けられるというところがあります。そんなことから考えますと、できるだけ多くの方々とコミュニケーションをとる。特に保護者は機会があるごとに、日々学校に通っていただければありがたいかなと、このように思っております。

感想も含めてですが、よろしくお願ひしたいと思ひます。

## ○尾形委員

やはり自らの命を絶つということは、決してあってはならないと、そういう事態だと思うのです。今回自殺の可能性のある死亡事故が発生したわけですがけれども、本当に亡くなられた生徒に哀悼の意を表したいと思ひます。また、ご家族の方々にもお悔やみを申し上げたいと思ひます。

先ほど指導課長からあったように、やはり教育委員会が校長会、そして学校と連携を取り、子どもの自殺を防ぐための方策を検討し、教育委員会と学校が一体となって命を大切にすると、そういうことに取り組んでいくことは、とてもありがたいなと思ひます。

また、藤崎委員からも話があったのですけれども、大人が子どもの命を守るには、まずやはり難しいのですけれども、子どものSOSに気づいてあげる、これが大事だなと思ひます。また、子どもの多くは大人に自殺の相談をしないものです。多くの子どもは友達に相談します。学校でも家庭でも友人に自殺の相談をされたら、どうしたらいいのだろうか、先ほど藤崎委員が言ったように信頼できる大人、また親につなげていくということを教えていくことが必要です。学校、家庭、地域が一体となって教えていくということが大事かなというふうに思ひます。これからも学校、家庭、地域が一体となって子どもの命を守っていききたいなと思ひます。

私は、この4月から30回以上、大田区の小・中学校に伺っています。そこで、学校の様子を少し話させていただきたいなと思ひています。

まず第1に、よく先生が子どもを褒めて励まして、そして自己肯定感を高め、学習意欲ややる気を高めております。先生がその子なりの努力や成長が見られたときや、相手の気持ちを考えて行動したとき、自分のことだけでなく、クラスのことを考えて行動したときには、タイミングを逃さず大きな声で褒めております。また、ある中学校では、「ほめほめサロン」というコーナーが設置されて、子ども同士がいいところを見つけて、褒め合う、褒めていく、そういう取り組みをしておりました。これはちょっと感激いたしました。

た。

第2に、子どもの成長を促すという叱り方、話し方を心がけているなどと思います。頭ごなしに叱ったり、感情的に、そして一方的に叱るのではなく、子どもの話、言い分を受け入れ、納得する叱り方、話し方を心がけております。私は週3ないし4回、学校にお邪魔しているのですが、乱暴な指導というのを見たことがありません。非常に言葉遣いも丁寧になっております。

第3に、子どもたちの話をじっくり聞き一緒に考えているなど、そこに気をつけているなどと思いました。どの先生も子どもの話をよく聞き、一緒になって考えようとする共感的な姿勢と態度で子どもたちが自らの力で問題を解決しようと、そういう支援をしているなどと思います。ある中学校で先生が子どもの発言をじっくり聞き、うまくフォローしてくださるので、子どもたちが安心して堂々と修学旅行に行ったことを英語で発表していました。すばらしいなどと思いました。

第4に、先生の日常指導や授業の中で、「ふわふわ言葉」、そして「チクチク言葉」の話をよくしております。わかりやすい言葉で、または絵を使って説明しています。言葉遣いは、私たちが楽しく生活していく上でとても大切なツールだと思います。相手を思いやる優しい言葉遣いができるように指導してくださっていることは、とてもありがたいなど思っております。

ただ、課題もあります。まず、学校公開中に廊下で保護者の方が大きなおしゃべりをしている様子を見かけます。それから、ずっとスマホに夢中になっている保護者もおります。さらには、先ほど鈴木委員も言われたのですが、学校公開で保護者向けに、子育てやスマホなど大事な講演会等がある場合に、学校公開には来ているのですが、講演会になるとすうっと人が少なくなってしまうというような状況があります。やはり保護者に話を聞いていただく、それが課題なのかななど思いました。

以上です。

## ○委員長

ありがとうございます。ほかには。

## ○藤崎委員

学務課長にお伺いしたいのですが、先ほどの学校給食費の徴収状況、データは手元にいただいているのですが、ここ数年、未納の児童生徒数、未納金額はどんどん減っている、回収率はどんどん上がっているという、我区にとっては本当に喜ばしいことなのですが、わかる範囲で結構なのですが、この傾向というのは学校の先生方の努力ということなのか、何かほかにも要因があるのか、耳に入っていれば教えてください。

## ○学務課長

やはり一番大きいのは先生方の努力、教職員の努力だと思います。限られた給食費できちんと出すためには、やはりきちんと納めてもらわないと十分な給食が出せませんので、学校全体がそういった意識をもって、徴収に取り組んでいるといった成果だというふうに考えております。

○藤崎委員

わかりました。ありがとうございます。

○委員長

ほかにどなたか。よろしいですか。

では、これもちまして、平成28年第6回教育委員会の定例会を閉会いたします。

ありがとうございました。

(午後 3 時25分閉会)